

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800024		
法人名	株式会社 マル若商店		
事業所名	妻木グループホーム		
所在地	岐阜県土岐市妻木町450番地の1		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	平成23年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyouhouyou.jp/kaiyouip/infomationPublic.do?JCD=2191800024&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、川のせせらぎが聞こえ、又敷地内には120坪の畑があり自作で季節に合った、野菜・果物等を収穫でき入居者とともに食事に取り入れ楽しくしており、周囲には山々が見渡せる静かな環境にあり、散策等も入居者に合わせたコースを設定しております。理念である「地域の皆様と協力し合い、地域生活を通して入居者の健やかなる、心豊かな暮らし」を支援し、利用者さんの健康管理を基本に、利用者さん同士のコミュニケーションを重点にした月1回の夕食を行っています。今後は、運営推進会議を充実させ、地域に溶け込んでいくと同時に、ご家族参加のレクリエーションを計画していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道に面した立地条件の良さもあり、家族や知人が気軽に立ち寄り、馴染みの関係が継続されている。また、通学路でもあるため、子ども110番が設置され、子どもが利用者とも挨拶を交わしている。管理者の役割は縁の下の支えでよい、「スタッフの心身、職場の環境整備」が利用者サービスにつながる、という考えから、利用者と一緒に、囲碁、将棋をして管理者もケアの一役を担っている。職員の研修や学習の機会を多く確保し、専門性を高めながらサービスの質の向上につなげている。近隣に住む職員が多いことから、地域とのつながりを持つことができ、様々なボランティアの来訪がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議で確認し、玄関先と居間に理念を掲出しいつでも把握できるよう努めている。	「地域の皆様と協力し合い、地域の生活を通じて健やかなる、心豊かな暮らしを育む」を理念とし、いつでも目にとまる玄関・居間に掲示してある。また、月1回の全体会議、新人研修において、全員で再確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設したばかりで地域交流はまだできていないが、散歩で近所を周る時には必ずスタッフから笑顔で挨拶をするよう心がけている。	職員には近隣住民が多く、自治会には協力金という形で関わっている。広報の配布・地域行事への参加などで地域に溶け込む努力をしている。左義長・地元の祭りへの参加、子ども御輿が立ち寄るなど交流の輪が徐々に広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々とお祭りやイベントを通じて交流し、認知症について理解を深めて頂くよう努力をする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を持った事で、近隣の方々の意見交流や様々な情報を取り入れられる為、今後も会議を大切にサービスの向上に努めます。	概ね2ヶ月に1回開催され、自治会長、民生委員、行政、家族、地域代表が参加している。参加者から地震対策の取り組みが質問され、ホームとしての方針を説明し、参加者から地元はどのように支援することを求められるかなど、協力的な意見が出されている。	運営推進会議の目的、趣旨を理解し、2ヶ月に1回の開催に向け、さらに努力されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内での相談事については、日常的に市へ相談・確認・指導を直接受けています。生活保護受給者の方も受け入れています。	ホーム状況・利用者についての相談や、法律改正部分など指導を受け、日常的に連絡を密にし、協力関係を築いている。メール等で定期的な情報提供もあり、また、行政主催の研修会・行事には積極的に参加し、交流を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については、研修会を行い、特に介護を始めたばかりの職員を中心に、機会あるごとに学習している。今後も常に取り組んでいけるよう話し合っていく。	マニュアルを基に、緊急やむを得ない場合を想定し、研修を重ねている。他の職場を経験した職員からの経験も交え、特に新人教育の場を利用し、実践につなげている。また、言葉の拘束についても配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については会議を設け、各職員の意識付けを行っている。		

岐阜県 妻木グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後行政が主催する研修を終えた者から、全職員が理解できるように勉強会の場を持ちたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に当たって施設内の詳しい内容を説明し、了承を得たのち契約を行っている。又、不明な点は随時説明できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議にて利用者やご家族の意見を取り入れられるよう接客をしている。又、直接申し上げられない方には、玄関先にご意見箱を設置し意見が聞けるよう努めている。	家族の訪問は頻繁にあり、その都度、意見を聞いている。ホーム便りでも看護師からの健康面での状況を報告し、意見を求めている。本人から、食事時の席替えの要望があり、改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティング会議を行い、各利用者の状態やホームの運営に対して職員の意見を取り入れ全員で考えられるような場を設けている。	「職員の経験や思いは、できる限り、ホームで活用させたい」という管理者の考えから、会議以外の場面でも、その都度意見を出せる環境ができている。オムツの扱い、水に溶けやすいトイレトペーパーの選択方法などが提言され、改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も常に朝礼に参加して楽しく働ける職場づくりに日々勤めています。管理者は、体力や年齢を考慮した勤務体制作りに心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会や外部研修にも少しずつですが参加しています。また、その報告会等を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オープンして間もないため、同業者との交流はありませんが、今後他のホームへの見学を計画し、サービスの質の向上に勤めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声かけや見守りはもちろん、本人の声に耳を傾け安心を確保するため常に職員が努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談を生かし、利用者の現在に至るまでの生い立ちを詳しく聴いた上で、困っていることや不安に思っていることをよく聴き関係作りに勤めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望、本人の希望や状態をよく観察し、本人にとってどうすることが一番いいのか、どう支援すべきかを見極める努力を常にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護される」「介護する」という考えではなく、利用者には少しでも「一緒に暮らす我が家」という考えを持って頂けるよう、役割や生きがい作りを考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人とご家族がゆっくり話ができるよう居室内にて場を設けている。今後はご家族も参加して頂ける行事を予定していきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が希望される場合、共に外出される機会を設けている。今後はご家族はもちろん、学生時代の友人や親交が深かった知人の方も、更に来訪しやすい開放的な環境作りをしていく。	家族、親戚、友人の訪問が日常的に多い。訪問者が安心して会話ができる場所を提供し、呈茶により、歓迎している。職員も会話の輪に入り、再来を促している。馴染みの八百屋、喫茶店にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立や対立しないよう職員が関係作りに努めている。利用者一人ひとりの個性や性格を把握し利用者同士が自然に挨拶できるよう声かけを中心に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ転居されたときなど、必要なときはご家族に了解していただき、施設内での情報を開示するなど、退居先でご家族や利用者が混乱しないよう努めている。入院中の病院へお見舞いに行くなど、ご家族との関係を大切にし、連携も断たないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや困っている事等に耳を傾け、何でも言って頂ける関係作りや、日々快適な環境で暮らして頂けるよう努めている。生活の中で希望されたこと等できる限り希望に沿えるようにしています。	利用者一人ひとりの言葉を傾聴し、思いや意向を把握している。テレビの画面に興味を示す場合いでも確認している。思いや意向は、快適な暮らしに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など、詳しく聞き取り情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身状態やその人らしい生活パターン、そして残された能力を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師や担当看護師の意見を参考に、利用者・ご家族の希望を計画に反映し支援に努めています。	介護記録を基に、職員会議で意見を吸い上げ、家族の要望なども参考にし、介護計画に反映している。また、医師・看護師や関係者で話し合い、現状に即した見直しを行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアや気づきの情報を共有するために、モニタリングにも使用している、申し送りノートを全職員が読んで利用者の情報を把握し、利用者個々に対し統一したケアができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の通院介助や付き添いの支援を行っている。医療連携体制をとっており、看護師による健康のチェックや相談も行い、緊急には連絡し、かけつける体制もとっている。		

岐阜県 妻木グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自作の畑を利用し、採れたものを食事に取り入れる工夫、暮らしの中にボランティアや外部交流等地域との関わりが持てるよう計画を考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回かかりつけ医の往診を受け、健康への管理体制をとっている。異常時や薬等の変更時には、本人・ご家族にも話をして了解が得られるよう努めている。	契約時に、かかりつけ医について説明し、個々に選択してもらっている。協力医は、月に1回往診し、全員が受診している。職員の看護師が、日頃の健康管理を行い、緊急時は家族に連絡し、個々のかかりつけ医とも、緊密な連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康相談や健康管理を実施している。各利用者に異常が発生したときは、看護師にすぐに連絡し必要な時は、かかりつけ医の受診や入院措置など迅速な対応を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族の同意を得て利用者が入院した際は、看護師が立会い、ご家族の良き相談者となっています。勿論病院関係者と相談し早期退院に向け支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合における医療体制指針を説明し、承諾を受けている。随時、主治医とご家族との今後の方向性を話し合い、グループホームでの生活を前提に考えて頂く場を持つようになっている。	重度化や終末期に向けて、ホームの方針を文書により説明し、了解を得ている。ホームでの生活ができるまでを限界とし、かかりつけ医、家族、関係者が十分に話し合い、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を各階に貼り出し、迅速な対応ができるようにしている。又、消防署の協力を得て救急救命法やAEDの研修は基より、緊急時に対応できるよう努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと緊急マニュアルを作成し、利用者も参加した消防訓練を実施しています。地域との協力体制については、運営推進会議にて災害時の協力をお願いしていきます。	消防署の指導の下、利用者と共に、年2回の火災訓練を実施している。備蓄等も整っている。運営推進会議で、地域との災害時相互支援について、協力体制を話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉遣いには気をつけて頂くよう心がけている。間違った言葉遣いをした職員には利用者の立場に立った声かけをするよう注意し改善に努めている。居室に入る際はプライバシーを尊重し、無断入室しないよう心がけている。	高齢者を、人生の先輩として敬い、言葉かけに配慮するように、職員間で徹底している。居室の出入りも必ず声をかけるなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に利用者に指示するのではなく、何がしたいのか利用者本人の気持ちを尊重した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、日常的なスケジュールや決まりを優先させることなく、常に利用者の立場に立って、同じ目線で、個々に合わせた支援をしている。自室に長時間いる利用者にはこまめに訪室し、声かけを中心とした支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その都度訪問理美容サービスにより、本人の希望でカットをしている。入浴日以外にも毎日、爪や髭・髪、着衣が乱れていないか確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員参加の夕食会を実施しています。ホーム内でも利用者を交えた調理やおやつ作り等を行い、食べる事への意欲や生きがい作りを行っている。又、食事の準備や片づけも手伝って頂いている。	季節の野菜や果物が、敷地の畑で収穫され、食する楽しみを味わっている。料理の味や作りかたを話題に、職員も利用者と共に食事をし、準備、片付けなども行われている。月に1回の夕食も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の健康状態や歯の状態に合わせて食事形態を変更し、バランスの良い食事を摂る事を心がけている。水分に関しては、状況に応じて水分を摂って頂く対応をしている。食事量の記入や食事介助・見守りも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、清潔を保つよう心がけている。イソジンにて舌のケアも行い、起床時・寝る前のイソジンうがいも行っている。又夜間義歯は預かり、毎日洗浄している。		

岐阜県 妻木グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した方も介助が必要な方も、排泄に関しては見守りを行っている。排泄パターンを把握しおむつの使用量軽減に努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、こまめにトイレへ誘導し、個々に応じた自立支援が行われている。昼間はトイレを、夜間、危険な場合は、ホータブルトイレを使用している。できる限り、トイレへ誘導し、オムツ使用量の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の状況により、食事の対応あるいは、薬の対応に心がけて便秘対策は行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番等は、できる限り本人の希望に沿う様にし、その日の状況に合わせて時間も変更できるようにしている。	浴槽は毎日用意し、利用者の希望に合わせ、入浴できるようにしている。職員は、個々にあった入浴を提案し、楽しんでもらえる方法を工夫している。また、利用者とのコミュニケーションを深める場としても利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の体調に合わせて、休息はとって頂くようにしている。夜間安眠できない方には、日中に運動やレクリエーション等を取り入れ、日中と夜間のリズムをつき安眠に繋げるよう心がけたり、話し相手になり安心して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は医療ファイルを確認し、全職員が把握できるように努めている。服薬時には、日付や氏名、時間や錠数、確実に口の中に入った事を確認しミスがないよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者がホーム内での生活に生きがいを見つけ、頂けるよう役割を作って、少しずつ参加して頂くようにしている。又、本人が得意とされている役割を継続できるよう気づきを大切にしながら支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、主に午前中敷地内の畑や川沿いの周辺まで散歩に出掛けたり、ドライブや喫茶店、買い物などの外出支援を増やしている。利用者の希望をできるかぎり叶えるようにして、月に一度ですが、外食と行楽行事を設けている。	近隣を毎日散歩したり、神社に出かけている。買い物・ドライブ・喫茶など、利用者の希望を聞き、実現している。ホームの年間行事として、花見、紅葉狩りなどを企画し、家族や地域の協力を得ながら実現している。	

岐阜県 妻木グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了承の上で金銭管理は職員が行っている。一部の利用者のみ強く希望されているので、その方の精神面の安定を図る為、少額のみ個人の財布にて所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が書いた絵手紙を、毎月家族宛の請求書に同封してしている。年末に向けて各利用者がご家族宛の年賀状を出せるよう支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファを置き、居室入り口には暖簾をかけ、利用者がゆったりとした気分で過ごせるようにしている。居間には、1階2階それぞれ壁に季節に合わせた貼り絵やレクリエーションでの個々の作品等を掲出し、日中は音楽を流しながら居心地の良い空間作りに努めている。	共用の空間は広く、利用者は、ソファにゆったり腰をかけ、語り合い、趣味や手作業などで、思いのままに過ごしている。利用者が作り上げた貼り絵や壁掛けが掲示され、自分達で育てた季節の花を飾り、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、主に食事をするテーブル・椅子やリラククスして頂く為のソファ等も設置し、利用者同士が自由に過して頂けるよう環境を考えている。中には、利用者の居室にてTVを見たり談笑されたりする方もみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者にとってなじみの家具や物があれば居室に配置できるようにしている。又、仏様やご家族様の写真等置かれる方もあり、その人らしい「自分の家」になるような空間作りを支援している。	居室には、整理整頓ができる棚、ベッド、クーラーが設置されている。使い慣れた整理タンス、テレビ、鏡、家族の写真等が持ち込まれ、家族と共に配置を工夫し、自分に合った部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー構造で利用者の身体能力に合わせて自立して生活ができるよう環境面で配慮しています。出来る事・出来ない事を、「出来ない事」よりも「出来る事」を見出し、本人の残存能力や生活の生きがいを保持して頂けるよう努めている。		